道徳の時間の指導における７つの基本方針〈整理版〉

「学習指導要領解説・道徳編」（文部科学省）小学校編P. ７９～８０に基づく，
中学校編P. ８２～８４も並行的に記述されている。

【ポイント】

１　道徳の時間の特質を理解する

道徳の時間は，児童一人一人が，一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて**自己を見つめ，道徳的価値の自覚及び自己の生き方**についての考えを発達の段階に即して深め，内面的資質としての**道徳的実践力を主体的に身に付けていく時間**である。このことを共通に理解して授業を工夫する。

➡道徳の時間の３つの特質

２　信頼関係や温かい人間関係を基盤におく

道徳の時間の指導は，学級での**温かい人間関係が基盤**にあってこそ効果を発揮する。教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て，一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気を**日常の学級経営**の中でつくるようにする。また，それを生かした授業をすることによって，人間関係を一層育てていくようにすることが大切である。

➡人間関係

学級経営を基盤

３　児童が自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をもてるようにする（中：生徒の内面的な自覚を促す）

授業の全体において，資料とのかかわりや教師と児童及び児童相互のかかわりなどを通して，児童自らが**自分自身への問い掛け**を深めていくことによって，**自らの成長を実感**することができ，自己や社会の未来に夢や希望をもち，意欲的に生きていくための力を身に付けていくことができるようにする。

➡自己への問い掛け
内面的な自覚

４　児童（生徒）の発達や個に応じた指導を工夫する

児童には，年齢相応の**発達の課題**があるとともに，**個人差**も大きいことに留意し，一人一人の感じ方や考え方を大切にした授業を工夫する。そして，児童が自分の生活や自己の生き方を主体的に考えられるようにする。

➡発達や個人差の考慮

５　道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める要（かなめ）となるよう工夫する

学校の教育活動全体で行う道徳教育の要（かなめ）として，それらを補充，深化，統合する役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ，ねらいに含まれる道徳的価値の側面から**他の教育活動との関連**を把握し，それを生かした授業を工夫する。

また，内面に根ざした道徳的実践力が効果的に育成されるよう，児童の日常的な体験はもちろんのこと，集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動，地域の関係施設等との交流活動など，**多様な体験活動を生かした授業を工夫**し，道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えられるようにする。

➡関連的指導

体験活動との関連

６　道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

道徳の時間の指導を計画的に推進し，また，それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには，学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切である。校長の方針を明確にし，道徳教育推進教師を中心に**指導体制の充実**を図るとともに，道徳の時間への校長や教頭などの参加，他の教師との**協力的指導**，保護者や地域の人々の**参加や協力**などが得られるように工夫する。

➡指導体制

協力体制

７　児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢をもつ（中：指導に当たっての基本的姿勢の理解を深める）

道徳は，児童のみではなく，教師自身の課題でもある。児童に教え込もうとするのではなく，教師自らが児童と**共に考え，悩み，感動を共有**しながら，学んでいくという姿勢で授業に臨むことが大切である。また，学級での日常生活においても教師の道徳的な在り方が求められる。

➡共に悩み、学ぶ姿勢

※ 整理：東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」